

北海道の湿地に見る希少植物数種について

外山雅寛

これまで、筆者は主としてタヌキモ類の分布や生態を追究してきたが、その折他の湿地植物についても観察する機会を得た。

今回はその中から希少なものの数種について報告しておきたい。

1) スギナモ

スギナモ *Hippuris vulgaris* L. は日本の他、ヨーロッパ・アジア・オーストラリア・北米・アラスカ・グリーンランド・朝鮮等に見られる寒地性の植物—水生植物である。日本産のものは氷河期の遺存種。

大滝末男氏(1980)によると、尾瀬ヶ原・八幡平松川温泉附近の五葉沼・北海道の大沼等があげられている。

最近では星一彰氏(1991)によって尾瀬産の流水タイプと止水タイプが報告されているが、恐らく尾瀬はスギナモの日本最大の群生地と推定される。

筆者がこのスギナモを北海道で初めて観察したのは1986年で、産地は北海道勇払郡苫小牧市弁天沼の周辺であるが、現在では再確認されていない。当時の植生状況はこの沼の周辺部にあるヤチヤナギの植生する所で、陸生状態で観察されている。

ごく最近では、1991年7月29日、筆者はタヌキモ科植物の観察のため苫小牧市ウトナイ湖北東岸部を踏査した折スギナモ3本を採集した(図を参照されたい)。ごく近くに美々川が湖に注いでいるが、本種の群生場所は止水域で植生状況は抽水状態または完全な沈水状態の2つの場合が観察されている。標本用として採集のものはいずれも沈水状態のもの(北海道では希少の水生植物なので根を残して採集した)。

1980年代のもので採集データが明確なものを文献で探してみたところ、滝田謙讓氏(1987)の報告が目にとまった(採集:1981.7.24—浜中町霧多布、海拔3m、No.405)。

2) クロモ

クロモ *Hydrilla verticillata* Casp. も北海道ではほとんど見かけない植物で、筆者が最初にお目にかかっ

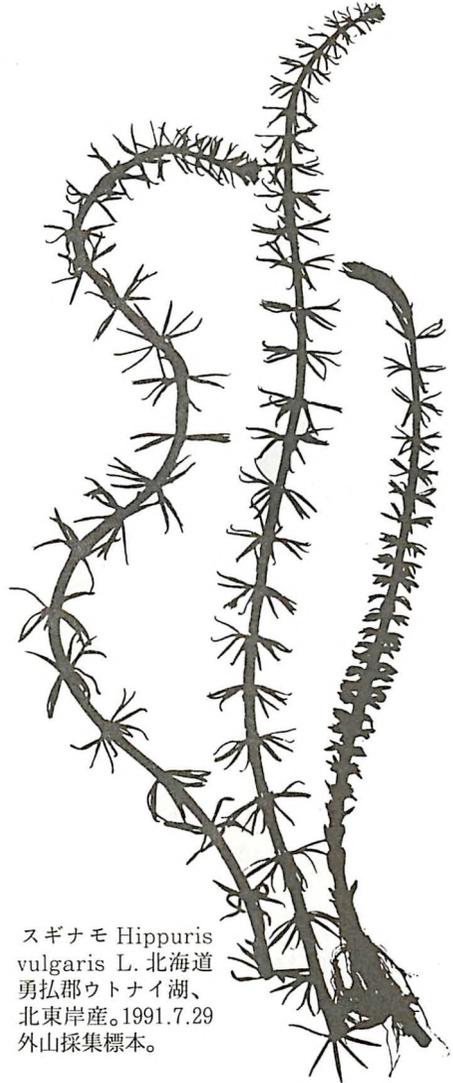


図1 スギナモ *Hippuris vulgaris* L. 北海道勇払郡ウトナイ湖、北東岸産。1991.7.29 外山採集標本。

た産地は、樺戸郡月形町月ヶ湖(Tsuki-ga-umi-ko)の排水溝の中で、流水中に群生状態で発見された。生育状況がとてもよかったから現存するものと推定している。

1991年7月29日、タヌキモ類の調査でウトナイ湖(苫小牧市)の北東岸を観察した折、そこではクロモの上部だけがちぎれて流れ着いたと推定される個体を数体見た。恐らくこの湖のどこかにクロモの群生場所がなければな

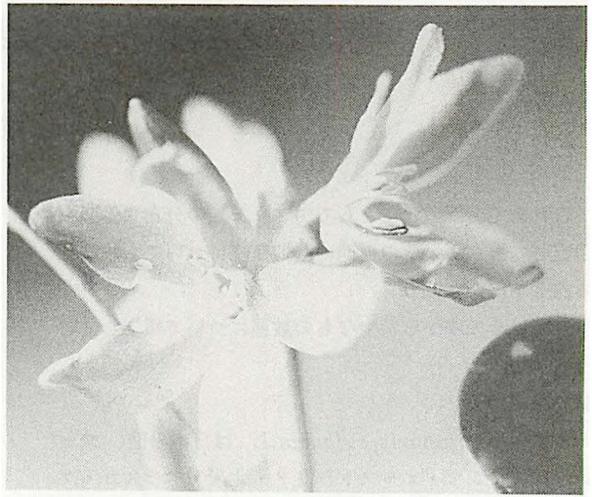
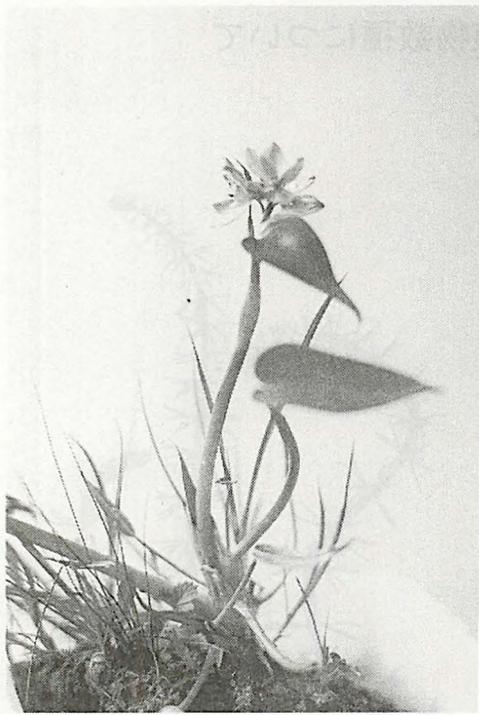


図2 (左) 筆者培養のミズアオイ *Monochoria korsakowii* Regel et Maack
 採集：1991. 7. 28 (石狩郡当別町篠津川沿)
 (上) ミズアオイの花の部分—花数が非常に少ないように思われた。

らないが、断片を手にしたのみで群生状態の確認には至っていない。

角野康郎氏 (1991) よりの私信によると、北海道では、釧路湿原のシラルトロ湖、達古武沼など、いくつかの群生地が現存するものの、道央地方を中心にクロモの自生地が激減しているという。詳細な調査はしていないが、ウトナイ湖のものはあるいは絶種寸前の状態なのかもしれない。今後注目していきたい植物の1つである。

3) ミズアオイ

1991年7月28日石狩郡当別町八幡篠津川沿いの湿地で初めて見た植物で採集培養している。

日本産のミズアオイ科 Pontederiaceae のうち、北海道に自然状態で分布するものとしてはコナギ *Monochoria vaginalis* Presl var. *plantaginea* Solms-Laub, ミズアオイ *M. korsakowii* Regel et Maack の2種であるが、花茎が葉よりも高くつき出すという特徴からミズアオイと同定した。

図鑑では抽水植物とされているが、水中ではなく湿地の岸—水際の急斜面にへばりつくような形で植生していた。同じ斜面にエゾノミズタデの陸生型 *Polygonum*

amphibium L. forma *terrestris* Kitagawa が見られ、水中ではその分布は見られなかった。水位の低下という環境の変化によるものと推定している。恐らくこの湿地帯はかつては相当深く、少なくともミズアオイが、抽水状態になるほどの水量があったものと想像される。ここからやや離れた湿地の中に開拓時代に切り倒された巨大な樹木の切株が点々と残され異様な風景が作り出されていた。樹木が切り出され、それ以降に形成された湿地帯らしい。

◎付記

採集されたミズアオイは標準のものより小形で、花数も数花と少なかったが、異状環境下での生育のためであると思われる。開花後花序の下向が見られたが、これはミズアオイの特徴でもある。

4) アギナシ

かつては石狩の大湿原帯に点々と分布を見た水生植物であるが、北海道では絶滅にさらされているものである。

新篠津湿原のものはとうに絶種、苫小牧市柏原湿原には3株が現存、採集はしていない。葉の先端部に注目されなければ、同属のオモダカ *Sagittaria trifolia* L.

やホソバオモダカ *S. trifolia* L. forma *longiloba* Makino 等と混同されやすい植物である。

絶種した新篠津湿原産のものは、がく片が濃赤色の美しい品種だった。変異の著しい植物である。

5) サウトウガラシ

本種は北海道分布になっていないが、原松次氏(1990)が初めてそのことを指摘され、登別・白老・苫小牧の分布を示された。筆者も苫小牧勇弘原野で本種を採集した。本州産より小型であるが、花は本州産より大である。

群生分布するが、その植生地は極めて局所的である。岡本幹二氏(1979)も登別市～苫小牧市間の分布を記録し、原松次氏の報告と一致している。

文 献

- 大滝末男・石戸 忠、1980. 日本水生植物図鑑、北隆館。
- 奥山春季、1974. 採集検索日本植物ハンドブック。
- 岡本幹二、1979. 室蘭地方植物誌(私刊)。
- 滝田謙讓、1987. 東北海道の植物、カトウ書館。
- 原 松次、1990. 北海道産植物で「日本の野生植物」にその分布が認められていない種類。北海道の自然と生物 第3号、カヤ書店。



図3 サウトウガラシ *Deinostema violacea* Yamazaki 北海道勇弘原野産 1990. 8. 19 外山採集標本(実物大)

星 一彰、1991. 尾瀬のスギナモ. 水草研究会会報 第43号。

山口県周防部南部の若干の池沼、
河川の水草(その2)

南 敦

水草研究会会報43号(1991年4月)「山口県周防部南部の若干の池沼、河川の水草(その1)」につづくものである。

1. 柳井市

(1) 柳井市水源池(上側): 柳井市黒杭 1991. 8. 29 全面にアサザが群生。イヌタヌキモが少し。他にガマがある。

(2) 柳井市水源池(下側): 柳井市黒杭 1991. 8. 29 堤防から水面にアシカキがのびていた。他に水草なし。

(3) 柳井高校周辺の水路: 柳井市古開作 1991. 8. 29 オオカナダモ、クロモ、マツモ、イトモなどが非常に多い。場所により、エビモ、ヒルムシロ、ウリカワ、クログワイ、レンコン、コナギ、クワイなどが群生。ウキク

サ類ではアオウキクサ、ウキクサ、コウキクサ、ミジンコウキクサなどが多い。ヒメウキクサも少しある。ミズオオバコ(花は少し紫を帯びた白色)が1本見られた。この種は近年見られなくなっていた。ホザキノフサモはみられない。

(4) 久可地の滝: 柳井市伊陸 1991. 8. 31 オオミズゴケ、ヒメヤシャブシ、ヤシャブシ、ガンピ、タニガワハンノキ、イヌウメモドキ、ハシカグサ、タチカモメヅル、ヒメシロネ、サイコクキツネヤナギ、シソバツツナミソウ、ササクサ、コイヌノハナヒゲ、ヤマイ、ヒメオトギリ、コケオトギリ、サワシロギク、ハリコウガイゼキショウ、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、サワギキョウ、ミズギボウシ、カキラン、アブラガヤ、ヌマトラノオ、ニガイテゴ、サジガンクビ、ノギラン、モウセンゴケ、オミナエシ、キキョウなどがある。

(5) 龍松寺の池: 柳井市伊陸 1991. 8. 31 20m×50m位の古い池。ヨシも少しあるが、カキツバタ、ジュンサイ、ミクリ sp., フトヒルムシロ、イヌタヌキモな